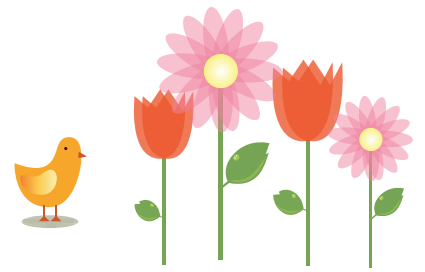


お母さんからお子さまへ

# ワクチン接種の説明を！

～クリニックからご協力をお願い～



子どもたちは、注射が大きらい！痛いし、怖いし、緊張する！  
同じように、お母さんもお子さまを連れてくる日はとっても大変では  
ありませんか？

実はお母さんのその大変さやツラさを子どもたちが一番敏感に感じ  
とっているのです。

お母さんがお子さんを傷つけないあまりに、「今日は注射じゃないよ」「お買い物に行くだけよ」「痛くないから大丈夫」と声をかける親御さんがいますが、そう言われても注射は痛いものです。注射が終わった後に「注射じゃないよ」「痛くないよ」と言われたのにだまされた、と思ってしまうお子さんもいるかもしれません。子ども達が本当に傷つくのは、お母さんの緊張したお顔、そしてお母さんに嘘をつかせちゃったことかもしれません。



そうすると、子どもは、外出や病院に行くたびに不安になり、人の言うことを信用できなくなります。

「ちょっと痛いけどとても大切な注射なのよ。すぐ終わるからね。痛かったら泣いてもいいのよ、お母さんがついてるからね」と声をかけてあげたほうが、子どもに嘘をつくことにならないと思います。そしてがんばった後のアフターケアはお母さんにしかできません。「泣いてもよくがんばったわね、大切な注射をがんばってくれてお母さんもすごくうれしいわ」と、痛みとがんばったことを共有して、たくさんほめてあげましょう。

子どもは、親御さんが、自分の痛みをわかってくれた、受け止めてくれた、信頼してくれた…という実感が積み重なると、ワクチンを納得して受けてくれる時が必ずやってきます。

私たち医療スタッフは、お母さんのかわりはできませんが、お子さんが納得できるように協力できることがないかと、いつも考えさせられます。どうか気軽に声を掛けてください。

まつい えりこ  
松居えり子

日本小児科学会認定専門医